The Shinro Journal

Vol. 1
令和２年５月 25 日（月）
島根県立松江東高校　進路指導部

The Shinro Journal とは・・・松江東高校進路指導部が発刊する情報紙です。主に進路に関する情報提供や、各種行事や講座の案内・報告を行っていきます。

令和2年度が始まりました！！

新年度開始早々新型コロナウイルスの影響で学校が 40 日間も休校となってしまいました。1 年生は高校という新たな舞台で、2・3 年生も、新しいクラスで心機一転、意気込んでいるところだったと思います。今日から学校も再開され、いよいよ新年度が本格的にスタートしました。

さて、「令和２年度 進路ジャーナル第１号」では今年度から始まる大学入学共通テスト（以下、共通テスト）について特集します。３年生の人たちはその第１期生になるわけです。

【英語の外部試験導入は延期・記述問題導入は中止】

このことはニュース等で既に知っていると思います。英語の外部試験導入は延期となり、文科省では 2024 年度から導入する方針です。ただ、一部の大学では外部試験の結果により加点される場合がありますので、志望する大学の要項などで確認してください。数学ＩＡと国語で導入予定であった記述問題も自己採点の難しさなどで今年度は取りやめとなりました。来年度以降については未定となっています。

共通テストの出題教科・科目と配点は以下の通りです。

「2021 年大学入学共通テスト」出題教科･科目

教科	出題科目		試験時間(配点)
国語	「国語」	1科目または2科目選択	80分(200点)
地理歴史	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」	1科目または2科目選択	1科目選択60分(100点) 2科目選択130分 (うち解答時間120分)(200点)
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」	1科目または2科目選択	1科目選択60分(100点) 2科目選択130分 (うち解答時間120分)(200点)
数学	① 「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」から１科目選択	1科目または2科目選択	70分(100点)
数学	② 「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」から１科目選択	1科目または2科目選択	60分(100点)
理科	① 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」	下記のA～Dのいずれか1つの選択方法により科目を選択 A 理科①から２科目 B 理科②から１科目 C 理科①から２科目及び理科②から１科目 D 理科②から２科目	【理科①】２科目選択60分(100点) 【理科②】１科目選択60分(100点) 2科目選択130分 (うち解答時間120分)(200点)
理科	② 「物理」「化学」「生物」「地学」		
外国語	「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」から１科目選択		「英語」・リーディング80分(100点) ・リスニング60分(うち解答時間30分)(100点) 「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」 ・筆記80分(200点)

注1．地理歴史、公民から２科目を選択する場合、「世界史A」と「世界史B」、「日本史A」と「日本史B」、「地理A」と「地理B」、「倫理」と「倫理、政治・経済」、「政治・経済」と「倫理、政治・経済」の組合せは不可。
注2．地理歴史と公民並びに理科②グループの試験時間で、２科目を選択する場合は、解答順に「第１解答科目」及び「第２解答科目」に区分し各60分間で解答する。ただし、「第１解答科目」と「第２解答科目」の間に答案回収等を行うために必要な時間を加え、試験時間は130分となる。第１・第２解答科目の成績利用方法は大学により異なる。
注3．英語を選択する場合、原則として、リーディングとリスニングの双方を解答する。

出題科目・教科に変化はなく、試験時間の変更も「数学Ⅰ」・「数学ＩＡ」が 60 分→70 分の変更のみ。配点も英語の配点が、筆記・・200 点　リスニング・・50 点からリーディング（筆記）・・100 点・リスニング・・100 点（この変更は大きい）の変更のみ。

それならセンター試験と大して変わらないのか？変わるところと変わらないところがあります。その変わるところは

【全体として変わるところ】

① 思考力を問う設問が増える。
知識だけで解ける問題は減り、身につけた知識をいかに使えるかを試す問題が増えると思われる。

② 複数の資料や題材を読んで解く設問が登場する。
たとえば、国語では第１問は従来は論理的文章であったが、試行調査（プレテスト）では、論理的文章と実用的な文章（ポスターの文章・法律の条文）の組み合わせたものが出題された。

③ 日常生活や社会事象と関連付けた設問が増える。
この形式は従来もあったが、共通テストではより顕著になると思われる。

④ 選択肢
「当てはまるものをすべて選べ」「選択肢の中に正解がない場合はゼロにマークしなさい」といったセンター試験にはなかった形式が、試行調査（プレテスト）ではあった。

①～③については来年の共通テストにおいてこのように出題されるものと思われる。④については定かではない。

【英語】

① 発音・アクセント・語句整序の単独問題がなくなる。
センター試験ではあったこれらの単独の設問はなくなることとなる。

② 設問文もリーディングは英語となる。
これまでは設問は日本語であったが、設問も含めて全て英語となる。

③ リーディング 100 点・リスニング 100 点の配点となり、リスニングの読み上げも１回読みまたは２回読みとなる。
試行調査では大問数は６題であったが、第１回試行調査では第３問以降が１回読み、第２回試行調査では第４問以降が１回読みであった。
リーディングとリスニングの配点比率は１：１であるが、これの実際の扱いは各大学に任されており、近隣の大学は以下の通りである。（２０２０年３月末時点）

	R	:	L
島根大学	4	:	1
鳥取大学	4	:	1
岡山大学	4	:	1
広島大学	1	:	1
山口大学	4	:	1
鳥取環境	1	:	1
下関市大	7	:	3
山口県立大	5～1	:	1（学科による）

【国語】

① 論理的文章と実用的な文章や図表を総合的に読み取るものが出題される。

試行調査では論理的文章と実用文（ポスター・著作権の条文）・図表を絡めたものが出題された。来年１月の本番でも同様の形式になると思われる。

② 第２問以降も複数の文章・資料を絡めたものが出題される。

試行調査ではセンター試験の第２問にあたる文学的文章の読解に、詩とその同一筆者のエッセイが出題された。センター試験では第２問は小説と限られていたが、共通テストでは小説に限ることなく、詩歌・エッセイ・評論（おそらく文芸評論）の中から二つくらいを組み合わせた出題になると予想される。

【数学】

① 数学の知識だけでは解けない問題が増える。

センター試験は数学の基本的な知識を身につけ、それを利用して計算する力を問うものであったが、共通テストはそれに加えて文章を読んで問題の意図を読み取り、それを数学の問題として捉えることができる力が問われることになる。

② 高校生活の場面や日常生活を題材にした問題が出る。

従来のセンター試験ではあまり見受けられなかった形式だが、太郎さんと花子さんとの会話よる設問や実用的なものを出題テーマにしたものが予想される。

また、理科では専門理科において選択問題がなくなる。たとえば、化学においては、センター試験は大問は７問。第５問までが必答で第６問と第７問はどちらかの選択であった。試行調査では大問は５問ですべて必答であった。

地歴は図版・史料（資料）・グラフ等が増え、生徒が読み取るべき情報量がかなり多くなっている。また、教科書・資料集にはあまり見られない初見の史料（資料）も多くなっている。（試行調査とセンター試験との比較）

以上一部であるが変わるところを教科別に見てきた。結局、「知識の理解の質を問う問題となり、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる」（「共通テスト作成方針」大学入試センター）ことになる。しかし、学習指導要領は変わっておらず、出題範囲や求められる知識に変わりはない。要は変わるのは問われ方である。前述したように「身につけた知識をいかに使えるかを試す問題」が現行よりも増えるということだ。

対策としては、まず授業を大切にして基礎学力を確実に身につけることである。このことは学習指導要領が変わり、出題範囲が変わったりしても、またマーク式から記述式に戻ったりしても決して変わることはない。

ただ、共通テストをセンター試験の延長のように捉えてしまうのはよくないと考える。「問われ方」が大きく変わるので、むしろ別ものと捉えてしっかり対策すべきである。「受験生は初ものに弱い」とよく言われる。たとえば、今年のセンター試験の国語では漢文は散文を伴わない漢詩単独の出題であった。これは1992年度本試以来のことであった（それ以降散文プラス漢詩という形式の出題はあった）。その年の模試では１回も漢詩単独のものはなかったし、どのセンター用の問題集にも掲載されていない。受験生にとっては、思いも寄らない存外のことであり、まさしく想定外のことであったろう。問われていることは従来のものとほとんど変わりなかったにも関わらず、極めて不出来であった。本来の力が出し切れずに終わってしまったという受験生が多かったと思われる。

共通テストではこのように「初もの」（いままでにない問われ方）が多いと予想される。過去問演習を通したパターン学習では対処できないと思った方がよい。対話的授業を真剣にやることや興味関心を持ったものを、自らの手を使って調べるという姿勢こそが大切ではないだろうか。具体的には、授業に関連有る無しに関わらず、いろいろなジャンルの文章（新聞も含めて）を読むことや、これはと思った文章をノートに書きとめる、或いは貼り付けるといった作業を億劫がらずにやって欲しいと思う（これは後々小論文を書くときにとても役立つが）。

【英語】　～共通テスト（リーディング）私も解いてミタ～

［第１問～第２問］

大切なのはスピード感。何が問われているかを理解し、瞬時に必要な個所をポスターや手紙などから発見する必要がある。満点取れる！

［第３問］

話の流れを理解しなければいけない。普段から各パラグラフで筆者が伝えたいことを見つける力が問われている。

［第４問］

第１～３問に比べて時間を使う問題。相反する、あるいは賛同する筆者ＡとＢの主張を掴む必要がある。筆者Ａの主張、筆者Ｂの反論、筆者ＢがＡに賛成していること、筆者ＡとＢが共通して主張していることなどを読み取る。

［第５問］

時間をかける。精読力が求められる。複数選択肢（２つ以上選んでもよい）という問は、５点配点（センター試験でいうと10点分の配点）。英文を正確に読んでいなければ正解できない。なぁなぁでは点を落とす。

［第６問］

今までのセンター試験の長文問題に近い。論説文を理解する精読力・論理的思考力が求められる。

［結局何をすればよいのか］

①語彙力強化
単語テストから逃げない。日々、新出単語も既出単語も空白なく記憶に残す。
②精読力をつける
「文法出題なし＝文法不要」では決してない。教科書の英文に緻密な予習で挑む。それが二次の英語にもつながる。
③情報検索速度の向上
日本語のポスターを見るときに上から下まで正確に読もうとする人はいない。いらない情報を飛ばして読むことになるが、その力は英文を正確に読むことができないと手に入らない。
④リスニング力の向上
語彙力と文法力が基礎。読めない単語やフレーズが聞き取れるはずもない。授業の音読を大切にする。単語テストの準備は声に出してセルフチェックする。音読しないものに英語の女神は微笑まない。